

○学内からの視点

1. プログラムの履修・修得状況

本学において、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、2023年度より開設、既存の科目である「情報リテラシー」「統計学入門」を本教育プログラムの対象科目とすることにより、2023年度入学生から履修することのできるプログラムとなっている。

2025年度の本プログラム対象学生の内、「情報リテラシー」を受講した人数は634名、「統計学入門」を受講した人数は146名となっており、2024年度と比較しても全学部必修科目「情報リテラシー」に比べ、「統計学入門」の履修者数が少ない現状がある。今後は、プログラム履修の意義も含め、学生への周知を強化し、「統計学入門」の履修者数を増加させていく必要がある。

2. 学修成果

本プログラムを構成する「情報リテラシー」「統計学入門」の2科目どちらについても、LMS（学習管理システム）への課題提出が毎回あり、その取り組み状況や授業内容の理解度をこまめに把握できるようになっている。学生アシスタントへも、どのような質問があったか、受講生はどのようなことで困っていたかなどの聞き取りを毎回行い、学生の理解度を確認している。さらに、成績評価や学期末に行われる授業評価アンケートを分析することにより、受講生の達成度や学修成果を確認することができる。授業評価アンケートの分析結果については、FD委員会と共有し、問題点があれば次年度以降の改善を検討している。

2025（令和7）年度の「情報リテラシー」および「統計学入門」については、「この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか」という項目において、5段階評価での平均がともに4.2であり、多くの受講生が論理的または統計学的なものの見方を獲得できたことが推測される。また、「あなたはこの授業の履修（授業そのもの、予習、復習）に意欲的に取り組んだと思いますか」についてもともに4.5以上であったことから多くの受講生が意欲的に取り組んだことがわかり、学修成果が大きいことが期待できる。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本学では、教育の内容や方法を改善・向上させ、自己点検や評価を行うために全学部にFD委員会がおかれている。FD委員会では、本プログラム構成科目を含む全科目を対象に、年度毎で1回の対面での授業アンケートを実施している。そして、その結果を分析することにより、全学部の学生の理解度の把握をおこなっている。

令和7度の「情報リテラシー」は、受講生の予備知識、技能や理解力に大きな差があり、全員が同じスピードで進めていくのは困難であるため、個別に対応することにより理解度を深めている。「統計学入門」についても同様であり、個別に対応することが必要となっている。個別の対応を行いながら、統計学がどのように利用されているかを理解し、面白さや便利さを感じ取ってもらっている。その成果として、「授業内容はわかりやすかったと思いますか」という項目では、5段階評価で平均がともに4.3以上であり、多くの受講生にと

ってわかりやすい授業内容であったことから、理解度も高いことが推測される。特に、「統計学入門」については「授業の速さや進め方は適切だったと思いますか」も 4.5 以上であったことから、授業の進め方や教え方はおおむね適切であったと判断され、多くの受講生が授業内容に理解が追いついていることが推測される。

#### 4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

毎年度 1 回実施する授業評価アンケートを通して、後輩等他の学生への推奨度について推測し、確認している。本プログラムを構成する「情報リテラシー」「統計学入門」は、ともに満足度が高く、新しいものの見方や考え方を得られたという実感のある受講生が多いことが確認できる。自由記述欄へのコメントからも多くの学生が楽しんで受講し、講義内容にも満足していると考えられ、後輩等他の学生へも受講を推奨すると評価している受講生が多いことが推測される。

#### 5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

2025（令和 7）年度については、本プログラムの対象学生 506 名のうち、リテラシーレベルを修了した学生が 68 名となっている。

本プログラムを構成している「情報リテラシー」は全学部で必修であり、1 年次の前期において自動履修登録されている。この科目については再履修クラスについても自動登録されるようにして、履修登録のし忘れを防いでいる。また、選択科目の「統計学入門」についても、入学時オリエンテーション、他の必修講義内、在校生オリエンテーション、教務からの一斉配信メールなどで履修を促す等、履修率向上に向けての計画が立てられている。しかし、2025（令和 7）年度の「統計学入門」履修者数は、前年度と比べ減少傾向にあるため、本プログラムの魅力を全学的に再周知し、履修率の向上に向けた取り組みを強化していく。

## ○学外からの視点

### 1. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

授業評価アンケートの結果を鑑みると、受講生の予備知識、技能や理解力には大きな差があり、適度なレベルの講義内容にするには困難な場合もある。そういった場合は、個別に対応しなければ作業ができない学生も少なくない。これからは受講生の反応を見ながら課題等の内容を考慮しながら柔軟に対応する必要性がある。

### 2. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

毎回の提出課題の内容把握や、受講生への理解度についての聞き取り等を行っている。受講生に対し柔軟な対応の必要性を担当教員間で共有し、改善する体制が整っている。個別対応が必要な受講生については、授業時間外でもフォローするようにしており、講義全体の水準を落とすことなく対応するよう尽力している。